

新原生代変火山岩類からなるエジプト・中部東砂漠のエル・ダバー地域の層序/地質構造の復元

Tectonic-sedimentation reconstruction of Neoproterozoic metavolcanic sequences; the El-Dabbah area, Central Eastern Desert, Egypt

*清川 昌一¹、鈴木 大志¹、Maher Dawoud³、Mohamed El-Hasan³、堀江 憲路²、竹原 真美²

*Shoichi Kiyokawa¹, TAISHI SUZUKI¹, Maher Dawoud³, El-Hasan Mohamed³, Kenji Horie², Mami Takehara²

1. 九州大学大学院理学研究院地球惑星部門、2. 国立極地研究所、3. Menoufiya University,

1. Department of Earth and Planetary Sciences Faculty of sciences, Kyuushu University, 2. National Institute of Polar Research, 3. Department of Geology, Faculty of Science, Menoufiya University,

エジプト、東砂漠地域には縞状鉄鉱層を含む新原生代の火山岩一堆积岩層序を持つ地質帯が広がっている。一般的に東砂漠地域では広い範囲で、変形や変成作用が強く、初期段階の層序／地質構造の復元が進んでいない。我々は、変形変成が低く、縞状鉄鉱層の層序が比較的残っている中部東砂漠地域のEl-Dabbah地域について、地質図作成、年代測定により地質構造／地質層序の復元を行った。本地域は、El-Dabbah層、Atsham層、Hammamat Groupからなり、それぞれ不整合で接する地質帯である。El-Dabbah層は、島弧起源の火山岩一碎屑岩層からなり、厚い枕状溶岩や火山碎屑岩、部分的に縞状鉄鉱層を含む地層である。Atsham層はモラッセタイプの礫岩を多く含む陸源堆積物である。Hammamat Groupは東砂漠地域に広く分布するプルアパート堆積盆であり、陸生層の赤色岩や湖起源の堆積物からなる。El-Dabbah地域ではこの不整合境界が広くみられており、不整合以前の火山岩・堆積岩層の地質構造が記録されている。SHRIMPによる3カ所の貫入年代（granite at ca.638.1±2.9 Ma and a rhyodacite at 659.6±3.0 Ma）およびHammamat Groupの砂岩中の碎屑性ジルコン年代が明らかになり、地質構造とともに、3回の変動ステージを明らかにした。D₁: 700–680 Ma: 島弧付加時期；D₂: 650–640 Ma: 横ずれに伴うAtsham層堆積とそれに伴う横ずれ運動および花崗岩類の貫入（大陸形成造山期）；D₃: 638–600 Ma: プルアパート堆積盆形成と造山運動の終始期。

キーワード：新原生代、島弧、横ずれ堆積盆、縞状鉄鉱層

Keywords: Neoproterozoic, Island arc, strike-slip basin, banded iron formation